

平成28年7月27日

一般財団法人 地域地盤環境研究所 理事長 足立 紀尚様  
京都大学 名誉教授 岡田 篤正様  
国土技術政策総合研究所 佐々木 隆様  
土木研究所 地質・地盤研究グループ 佐々木 靖人様  
京都大学 防災研究所 教授 角 哲也様  
京都大学 防災研究所 教授 千木良 雅弘様  
土木研究所 地質研究監 山口 嘉一様  
国土交通省九州地方整備局長 小平田浩司 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康  
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 電話 090-2505-3880

## 第1回「立野ダム建設に係る技術委員会」に関する要望書

私どもは、立野ダム問題解決のために活動している市民団体です。皆様が「第1回立野ダムに係る技術委員会」に選ばれていることを一昨日夜、偶然にも国土交通省ホームページを開いて知り、本要望書を作成した次第です。

立野ダムは、阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に国土交通省が計画している、「洪水調節」だけを目的とした高さ90mの穴あきダムです。

熊本地震で、阿蘇では大動脈である国道57号と阿蘇大橋が大規模な土砂崩れで崩落しました。そのすぐ下流の立野ダム建設予定地周辺も両岸が大きく崩壊し、工事用道路や現場事務所、工事車両なども崩落した土砂に埋まりました。

立野ダム完成後にこの地震が起こったとしたら、ダム本体周辺の両岸の地盤が大きく崩れていたわけであり、ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、立野ダム下部の幅わずか5mの穴がふさがり、洪水調節できなくなっていたのは明らかです。

しかし、事業者である国土交通省は、まわりがどれだけ崩れていても、「ダム本体建設予定地では大規模な崩落は発生していない」。すぐ近くを活断層が通っていても、「ダム本体に向かわないので、立野ダム建設に支障はない」としています。ダム本体をどれだけ丈夫に造っても、まわりの地盤が壊れたら使えなくなり、危険ではないのでしょうか。地盤が安定していない火山地帯は、巨大なダム建設の立地条件として最悪だと考えます。

そこで、以下2点について、立野ダムに係る技術委員会に選ばれた委員の皆様にご要望致します。

### 記

1. 立野ダム本体建設予定地のことだけではなく、その大半が崩落した立野ダム湖予定地周辺（特に右岸側の立野溶岩が堆積した台地側）や、ダム予定地周辺の崩落の状況、地質や断層の状況を勘案して、立野ダム建設について検討されること。
2. 国土交通省の説明を聞かれるだけではなく、現地をご自分で十分に調査され、私たち住民側の意見も聞かれた上で、立野ダム建設について検討されること。

追伸：地震直後に調査しました報告書（速報）と、現地の航空写真（アサヒグラフの写真に、立野ダム本体予定地とダム水没予定地、新たな阿蘇大橋の位置を書き込んだもの）を添付します。是非、目を通していただければ幸いです。

以上